

※プロット初期案

「キャッチャー・イン・ザ・ドープ（仮）」

○登場人物

○マキナ

南米の教会でシスター見習いをしているちっちゃな女の子（12歳くらい）。アナタに懐いており、村での案内役をつとめる。

表向きこそシスター見習いだが、その正体は親に口減らしのため

「教会という名の売春組織」に売り飛ばされた少女だった。

昼は聖職者としてはたらし、夜は男や女に犯され、まわされる。

そんな絶望的な日々を送るうちに、マキナの純粋だった子供としての心は破壊された。肉親と過ごした幸せだった時間もとうの昔に朽ち果てた。

彼女に残っている普通の少女らしく見える言動の全ては、昔、心があった時の言動を、ただ機械のようになぞっているにすぎない。

そんな非人間的な存在になりつつあった彼女はある日、

日本からやってきたという女から触手の苗を分け与えられる。

その触手は男を女に変え、愛液を餌としてすすり、成長を重ねる超常生物。

――身に宿したものは、不死に近い体となり、触手を自在に操り、

快楽をもつてして、すべての生物を支配することができる。

触手と交わり、その力を宿したマキナは、人間らしい感情を取り戻す。

久しぶりに彼女に宿った感情、それは、哀れみだった。

触手と交わり、一夜にして既存の生物を超越した存在となった彼女にとって、

散々苦しめられたはずの人間は、

もはや、とるにたりない存在となっていた。

――ヒト同士で交わることしか知らないもの……。

――女の深い快楽を知らぬまま死んでいく、ヒトのオスたち……。

――あわれな子羊には救いの手を差し伸べなくては。

彼女はシスターとしての善意から、触手による支配をはじめ。

村の男たちを女に変え、あらゆる女たちには、男では味わえない快楽を植え付け、自分や触手に愛液を捧げるように洗脳する。

それこそが村人全員が願う幸せの、唯一的なあり方へと書き換えてしまう。

それから数日後、彼女は日本からやってきたボランティアの一人、アナタと出会う。

恩人の故郷でもある日本からきたボランテニアとあって、

彼女は人間のアナタのことを少なからず気に入ってしまう。

彼女は、アナタを自分の家族（妹）にしようと画策する。

それは彼女にとって初めての恋。

そして、はじめて自分の欲望のためだけに振るう、

おぞましい触手の力だった。

外見…長い銀髪で肌が褐色のロリ。赤い瞳を持つ。服は修道服だが、頭にかけているベール（ウィンブル）以外は、修道服っぽい配色の扇状的なワンピース。背中や足元から触手を生やすことができる。髪型や雰囲気など、キャラで近いイメージだと、プリズマイリヤのクロエ。

○アナタ

ボランテニアで訪れていた青年。

マキナに懷かれていたが、

懷かれてしまったことがあだとなり、

マキナの妹にされてしまう。

とにかくさんざんな目に遭う。

外見…女体化後は、褐色銀髪のほぼ幼女。露出の多い修道服（矛盾）を着せられている。

元日本人男性なので茶色があった瞳をもつ。マキナを幼くした感じ（9－10歳くらい）。

○アキラ

アナタと共にボランテニアで村を訪れていたマッチョで快活な青年。

ボランテニアの移送船で知り合った、アナタより少し年上の友人。

将来の夢は野球選手で、社会人野球のチームからスカウトもされている。

日本には片想いしている女の子もいる。

夕方、宿からいなくなったアナタを不審に思い、教会を訪れたところ、

マキナによって拘束される。

女体化されたアナタにあてがわれ、マキナの命令によって支配されたアナタによって、

全ての精を搾り取られて女体化される。

女体化の過程で自我が耐えきれずに崩壊し、エラーを起こして

母乳を吹き出し続けるミルクサーバーと成り果てる。

外見…女体化後は男時代の名残の残る赤く短かめの髪、褐色のむちむちダイナマイトボデーのお姉さんになる。

○あらすじ

大学の卒業前に、一度訪れたかった海外ボランティアに参加したアナタ。辿り着いたのは南米（コロンビアとかその辺を想定）の僻地。過酷な環境に戸惑いながらも、アナタは教会附属の孤児院で、子供たちに絵本の読み聞かせをすることに。

アナタは挨拶に訪れた教会で、シスター見習いのマキナに出会う。

妖精のように美しい姿に見惚れ、ドギマギするのを抑えて自己紹介をするが、その様子が挙動不審でマキナに笑われてしまう。

——そんなに気構えないでください。

村のことをよく知ってもらうため、とマキナに案内され村を散策するアナタ。美しい花畑が並び、小作人の歌う涼やかな歌が響き渡っている（牧歌的）。

他の悲惨な地域に比べると潤っているように見える村を見て、

アナタはあたたかい気持ちになる。

——素敵な村ですね。

そんなことを、アナタは軽率に口にしてしまう。

アナタの様子を見て、思わず暗い笑みを浮かべ、

マキナは打ち合わせと称して、夕食（タマーレス、アヒアコなど）後に

アナタを教会へ呼び出す。

日も沈みかけた頃、一人で教会を訪れたアナタは、体が動かないことに気がつく。夕食には神経毒が盛られていたのだった。

体が重く、気だるく、動けない。

意識が朦朧としたところにマキナが現れ、アナタに囁く。

——この村のこと、私のことをアナタにもっと知ってもらいたいの。

——だから、ね♪ 私と家族になりましょう♪

気がつけば、アナタはどこから現れた触手によって体を拘束されている。

それはマキナの体から生えた異形の触手だった。

マキナは触手を操り、アナタを家族とすべく、自分とそっくりの妹へと作り替えていく。触手に犯され男性成分を全て搾り取られ、「妹」に変えられてしまうアナタ。

マキナによって妹になってしまったアナタは、村人として迎え入れられる。

ボランティアの青年が一人消えたことなど、なぜか誰も気づかない。

アナタは、初めこそ抵抗感を覚えていたが、次第にシスター見習いとしてマキナに付き従うことしかできなくなる。

シスターとなった最初の晩、アナタはマキナによって処女を奪われる。それはこの村の伝統にして悪習。

処女は神聖なものであり、もっとも村で権力のあるものに捧げるといったものだった。マキナは触手の力を得たことで、村の実質的な支配者となっていたのだった。さらにマキナは、アナタに村の残酷な事実を告げる。

この村にある教会は孤児の保護を行っているのではなく、売り飛ばされた子供たちが集められ、売春を行う娼館であること。

シスターとはその子供たちを性的に教育する役職であること。

村で育てている花は全て麻薬の原料であること。

絶望と快感に震えながら、アナタはマキナに犯される。

何度か果てたのち、マキナはアナタの前にボランティア仲間のアキラを連れてくる。

——お友達なのでしょう。離れるのは寂しいでしょう？

——だからアナタが彼を私たちの家族に迎え入れてあげて♪

マキナはあえてアナタの人格を一時的に男性へと戻した上で、

アキラと交わることを強要する。

これからの仕事に必要なことから、と丁寧に言葉で誘導されながら、

アナタは本来の意思とは無関係に、アキラを豊満なバストの女性へ変えてしまう。

しかし、アキラの体は女体化と相性が悪く、自我を失い、

喘ぎ声をあげながら母乳を撒き散らす、

おぞましい痴女のような存在に成り果ててしまう。

アキラの止めどない快感に苦しむ姿に耐えられなくなったアナタを見かねて、

マキナは女体化の「失敗作」が苦しまずにいられる場所を案内すると申し出る。

目の焦点の合っていないアキラを連れて、辿り着いたのは麻薬の材料の咲き誇る花畑。

植え込みの中をのぞき、アナタは衝撃的な光景を目の当たりにする。

それは、花畑に下半身をうずめ、喘ぎながら母乳をスプリングラーの如く、

花畑に撒き散らしている女たちの姿だった。

女体化の相性が悪い男たちは、この土の上に連れてくると、

苦しみから、快樂成分の含まれる土に身を埋め、自らスプリングラーと化す不思議な習

性を備えているのだった。

アキラにスプリングラーになってほしくないアナタ。

そんなアナタに、マキナは、アキラに女としての喜びを自覚させることができる、人としての形を保つことができるかもしれないと、3冊を半ば強要する提案をもちかける。

触手に、薬物に、マキナに、アキラに犯しおかされながら、アナタは自然との神秘的な一体感を覚える。薬物漬けの母乳と歌のような喘ぎ声の降り注ぐ花畑で、アナタはアキラとマキナの三人で幸福な家族として暮らすことを誓わされるのだった。

○構図案ⅴ

満開のケシっぽい花畑。マキナの丈の短い修道服から伸びる触手に侵されているアナタ。マキナは女の子座りをして、アへ顔痙攣状態で地面に仰向けで倒れているアナタの頭を太ももで挟んでいる。少し後ろで女体化したアキラが下半身を地中に埋め、母乳を撒き散らしている。

その母乳は、触手に絡み付かれているアナタの体にも降り注いでいる。太ももで固定されたアナタの口の中に、母乳が注がれている。

○構図案ⅴ

教会。胸のロザリオを手に、口付けし、微笑んでいるマキナ。

その背中や修道服の裾からは半透明の触手が伸び、空中でアナタを拘束している。

ほとんどロリ女体化しているアナタの体だが、おちんちんは触手に包まれており、ちょうど人生最後の射精をしている。

アナタは口を半開きにしてヨダレをドバドバ犬のように垂らしてのけぞって、ほとんど白目を向いて痙攣している。

○構図案ⅴ

満開のケシっぽい花畑。地中から生え、白目剥いて母乳をびゅるると噴き出しのけぞっているアキラのおっぱいにアナタは膝立ちで抱きつくようにして吸い付いている。

マキナはアナタとアキラを背後から抱きしめ、その両方を触手で犯して愉悦の表情を浮かべている。マキナ以外はアへ顔よだれドバドバで白目剥いてる感じ。背後にモブスプリンクラー女。